

私の視点

石田 博樹
(長岡高専助教授)



職訓短大実態に目を

業内容力
リキニラム
が本場に

最近の本紙の特集記事「二月三日付の社説には、新潟職業訓練短大に対する大きな期待が述べられてい

る。それらを踏んで、私は複雑な思いに駆られた。

この十年余りの間に、雇用促進事業団により、総合高等職業訓練校の「職業訓練短大」への転換が進められているが、その実

態はあまりにも矛盾だらけな粗製乱造訓練施設である。雇用促進

校は短大ではない。もちろ、法的にも「学校」ではない。あくまでも、職業訓練施設である。雇用促進

「短大」の教員は、従来の訓練校の教員から、指導員から「短大教官」に

「短大」への転換の最大理由は、訓練校職員の雇用保

障と施設の存続である。決

して地域社会の要請ではない。すなわち、訓練生の数

の激減による職業訓練施設の業務効率の悪化を社会が

事実を直視し、問題を明らかにしておかないことには、今まさに、全国各地

の「職業訓練短期大学」で発生している事態が、新

発田でも、やはり、発生するのではないかと私は危

う。このように「転換」を社会は放置しておいていい

のかという疑問が深まる。けにすぎないのである。この「短大」として扱わ

「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

単に看板を塗り替えただけ

の「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

の激減による職業訓練施設

の業務効率の悪化を社会が

「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

単に看板を塗り替えただけ

の「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

の激減による職業訓練施設

の業務効率の悪化を社会が

「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

単に看板を塗り替えただけ

の「職業訓練短期大学」の教員もいる。職業訓練校が

の激減による職業訓練施設

の業務効率の悪化を社会が